

その他の地域の海外伝道

前3回に書けなかったメキシコ、南米、ヨーロッパ、アフリカ、オセアニア、南アジア地域について書く。これらの地域への伝道は広範囲なものではなく部分的である。しかし近年、海外部の支援や当該教会の地道な努力が実りつつある。

メキシコと中南米は先住民インディオが住んでいたところにヨーロッパ人が移り住み、さらに“黒人奴隷”、アジアからの移民者がやってきた。今はそれぞれの混血であるメスティソ、ムラートラの人々も住む国々である。現在、教会はメキシコ2、コロンビア3、パラグアイ3、ペルー1、アルゼンチン1である。

1922年(大正11)佐野原分教会(現大教会)の信者渡辺品子はメキシコ在住日本人と結婚するため移住し高根品子となった。山梨県の所属教会で信仰を深めていた品子はメキシコへ渡るとメキシコ・シティーや国境近くのノガレスまでおたすけに歩いた。メキシコの市民権を得た高根は教祖70年祭の年、1956年(昭和31)布教所を開設した。1961年(昭和36)教人となった高根は深谷忠政アメリカ伝道庁長の奨めを受け、メキシコ教会を設立。教会が出来るとメキシコ在住の他系統の信者たちがメキシコ教会に集まり信仰を語り合った。名古屋大教会の安藤-ペレス・せつ子は高根の薫陶を受け1986年(昭和61)名古屋メヒコ教会を設立した。

コロンビアに天理教が入ったのは1960年(昭和35)12月天理高校2部農事部生9名が卒業を前に集団移住し、翌年1月ツマコに入植した事に始まる。9名より少し早くコロンビアへ渡っていた青年2名と農事部第2次入植者を加え、17名の青年たちのバナナ農園開拓と信仰生活が始まった。

2代真柱はツマコの青年たちに殊の外心をお寄せになり、青年たちの宿舎を「あらかき寮」と命名された。バナナ園は設立会社の事情により3年で解散、帰国する者もいたが残留を決意した若者は別の農場や日本商社で働くなどして布教を始めた。

1972年(昭和47)海外布教伝道部のコロンビア出張所が設立され、農事部生を送り出した天理高2部教官太田哲三が初代所長に就任した。最初に入植した17名の若者たちは苦労と変転の中、次第に減っていくが1次入植者の近藤正壽が1999年(平成11)に島ヶ原コロンビア教会を設立した。近藤はツマコ農園解散が決まった後も唯一人踏みとどまり、10年にわたって孤軍奮闘あらかき寮の神様を守った。この誠真実によりコロンビア最初の教会長となった。

その後、筒井雅夫が繁藤カリ教会(2003年)を、原沢九二治がファラジョネス教会(2008年、日本橋)を設立した。いずれも近藤と同じ第1次入植の仲間だった。

南米にあるその他の教会はパラグアイに兵神系2、洲本系1、ペルーに高知系1、アルゼンチンに河原町系1である。この中、アルゼンチンの2003年(平成15)設立ブエノスアイレス教会は韓国人、辛良基の伝道による。辛は韓国で入信、日本人以外が志した海外伝道として最初であろう。当然だが海外伝道は日本人だけが行うものではない。辛の伝道は大変注目される。

ヨーロッパ伝道に移る。時代は遡り、明治43年(1910)船場分教会(現大教会)がロンドン布教を始めた。明治時代に遠く離れたロンドンへ天理教を伝えようとしたのは何故だろう。いきさつは、電気技師として来日していた英国人T.A.ローズが明治42年船場分教会を訪れたことに始まる。ローズは

クリスチャン・サイエンスの信者であり、D.C.グリーンの『Tenrikyo』(明治28年刊)を読んで天理教を知っていた。

ローズは帰国を間近に控え、日本の新しい宗教に興味をもち母親の身上を相談するために船場分教会を訪れた。ローズはぜひロンドンへ布教師を派遣するようにと奨め、帰国した。

船場の2代会長梅谷梅次郎は海外伝道に特別な思いを持っていた。10年以上前にはアメリカ布教を試みた船場の青年もいた。単にローズが希望しただけでなく、こうした海外伝道への大望が船場の中に醸し出されていたのであろう。

赤木徳之助、正信藤次郎、高見庄蔵の3人がローズの世話でロンドンに教宅を構えた。赤木は当初の予定通り帰国し、以後若い2人が奮闘する。しかし、当時の英国は世界最高の文化国で、天理教が入り込むのは簡単ではなかった。他にも問題が発生、1920年(大正9)までに全て引き揚げざるを得なくなった。

この後、長くヨーロッパ布教は見られなかったが、2代真柱による国際宗教学会の発表や柔道親善使節としてのヨーロッパ各国歴訪は後の伝道に大きな力となった。1964年とその翌年、鎌田親彦と田中健三が一れつ会や青年会の派遣としてフランスに留学する。ともに神様を奉持していた。布教目的をもった再スタートである。1970年(昭和45)にパリ出張所が設立され、翌年日仏文化協会を発足、日本語学校を開設した。同校は私立ではヨーロッパ最初の日本語学校である。

2代真柱の種まきによりフランスの柔道家ベルナール・シュールドがヨーロッパ初のボルドー教会(桜井大教会)を1986年(昭和61)に設立した。シュールドは本場の柔道を学ぶため天理大学に留学。このおり、2代真柱の人柄に感化され親里の温もりに入信を決意したと言う。

現在ヨーロッパの教会は1カ所だが、当該地布教師と海外部の地道な支援により、フランスをはじめイギリス、ドイツ、スペイン、イタリアなどに布教拠点が作られている。

アフリカで唯一の教会はコンゴブラザビル教会である。1960年(昭和35)、2代真柱は西独マールブルクからの帰途、飛行便の都合でコンゴの首都ブラザビルに立ち寄られた。そのおり一行をタクシー運転手ノソング・アルフォンスが案内した。言葉が十分に通じない中、2代真柱の人柄に感動したノソングは入信。教会本部の修理丹精があつて、1966年(昭和41)、コンゴブラザビル教会が設立された。なお、異文化伝道の観点から医療、柔道、鼓笛など様々な支援が行われた。

その他のアフリカ地域で現在、ケニア、ウガンダにはそれぞれ3カ所、1カ所の布教所がありよふぼくが育っている。これは1981年(昭和56)から始まった「飢えた子供にミルクを」とのキャンペーンから両地域への支援活動が活発になった結果である。

最後になったが、インド、オーストラリア、香港について。1965年(昭和40)、上之郷一天木分教会長、山添明は来日中のインド青年を助けてインド布教を始め、1984年(昭和59)カルカッタ教会を設立した。また、青年会派遣留学生としてオーストラリアに渡った芝元一は知り合った夫婦(夫人は日本人)に教えを伝え、家族ともどもおたすけをした。1989年(平成1)、メルボルン心勇教会(敷島一葛上)を設立した。香港では南大教会により南香港教会が出来ている。